

# 令和8年度 群馬県立女子大学 高大連携による公開講座一覧及び授業概要【前期】

| 曜日 | 時間 | 授業科目名                      | 担当     | 授 業 概 要  |
|----|----|----------------------------|--------|--|
| 月  | 4  | 芸術の現場から（リレー講座）             | 藤沢     | 芸術分野で活躍する、また群馬にゆかりのあるアート関係者から、ホットな話題を自分の体験とともに提供していただくリレー講座。<br>美学美術史学科ウェブサイト <a href="https://www.gpwu.ac.jp/dep/lit/art/">https://www.gpwu.ac.jp/dep/lit/art/</a> →「芸術の現場から スケジュール」ページ   |
|    |    | 古文読解法                      | 佐藤(洋)  | 源氏物語、紫式部日記、枕草子、百人一首をとおして、古典文学作品を読むために必要な語法や文法（とくに助動詞）と文化的な側面について学ぶ。  |
|    |    | 韓国社会と文化                    | 尹      | 本講義では、韓国および北朝鮮の社会と文化を理解するための全般的な知識を習得する。具体的には、韓国の歴史、政治、教育、若者、家族、北朝鮮の社会と文化、脱北者といったトピックを取り上げ、様々な事例を通じてその特徴について説明する。また、韓国の社会と文化を参照点として日本の社会と文化を捉え直し、さらには異文化社会を理解する視角を身につけることを目指す。   |
|    |    | 国際法（基礎）                    | 鈴木(悠)  | 国際法の基礎的な知識とともに、外交、環境、安全保障、武力紛争などの様々な分野で、国際法がどのような役割を担い、どのように機能しているのか、ということ学びます。加えて、それらの分野の問題と国際法との関連についても理解を深めます。  |
|    |    | 言語と教育                      | 神谷     | 第二言語習得、及び第二言語教育の基礎について学ぶ。  |
|    | 5  | 生物学 1                      | 石田     | この世界には、とてもとてもたくさんのさまざまな生き物がいます。興味さえあれば、無限に生き物と生き物のことが溢れていることに気づけます。地球の生物は全部、進化の産物です。それはということかと、すべての生物には親がいて、親から子が生まれ、また子が生まれということがずっとつづいてきたしくみがあるということです。<br>生物学（生物科学、自然科学のある領域）は、そのような生き物の生まれてきた理由（なぜ）とそのような生き物がいるしくみや生の営み（なぜ）について調べて考えます。その結果が、さまざまな情報としてみなに共有されています。<br>この授業では、進化とはなにか、進化の産物というのとはどういうことかから始めて、それを繰り返しの事例を使って紹介します。写真、図、動画、書物や論文（古典から最新のものまで）からの引用をしつつ、講師自身がやってきた研究や活動も織り交ぜ、プロジェクターで投影して講義します。さまざまなURLを紹介し、授業で投影したスライドはpdf形式でウェブ・フォルダー資料として受講者（校内からは自由に閲覧できる）に提供します。  |
|    |    | データサイエンス                   | 甲村     | スプレッドシートを用いて実習しながら、データサイエンスの基礎を学習します。  |
| 火  | 4  | グローバル・シチズンシップ～大使リレー講座～     | 鈴木(悠)  | この講義では、グローバル社会の中で活動されている外部講師による知見や経験についての講演を聴きます。そして、グローバル・シチズンとしての意識を育むとともに、現代社会における課題に対する問題意識と理解を深めます。受講生には、講演の内容をもとに、自身の考えや疑問を発言する機会があります。また、外部講師による講演の授業では毎回課題の提出が求められます。  |
|    |    | 比較文学                       | 市川(浩昭) | 比較文学は、民族・言語・文化・宗教・地域そして国境などの領域を異にする文学や文化現象が、その境界を越えて関連し、異言語・異文化・異民族の世界に独自の文学や文化現象を生み出した事象の中に普遍的な実態とその価値を探る、文学文化研究の一分野である。この講座では、教養教育の立場から文学という文化現象が、異言語・異文化・異民族間に共有された事実から何を考えることができ、また何を考えなければならないのか、という比較研究がもたらす問題認識を醸成していきたい。そして比較研究の本来の目的である境界を越えた普遍的な価値の構築という、その意義を伝えたい。  |
| 木  | 4  | 芸術と社会                      | 未定     | 現代社会における芸術の在り方を様々な角度から概観する。<br>自身の身近な場から芸術について考え、また多くの人が芸術に親しむために美術館等の施設、各自治体、企業などがどのような取り組みを行っているのか、その事例を紹介し、意義を検討する。<br>本授業によって、今日芸術が社会の中でどのような意味を持ち、どのようなかたちで発信されているのかを学ぶ。  |
|    |    | クリティカル・シンキング               | 細川     | この授業では、主に戸田山和久『思考の教室——じょうずに考えるレッスン』（2020）の第1部「基礎編」に従って、自分と他者の議論の「説得力」ではなく「信頼性」を高め合うための、クリティカル・シンキングの理念を理解します。また、そのための基本的な原理と技術を習得し、実践します。  |
|    |    | 航空と観光ビジネス入門                | 上り浜    | 講師による講義12回のうち、観光について5回、航空ビジネスについて7回を予定。学外講師による特別講義を2回、まとめのディスカッションを1回。最後に試験を実施。（詳しくは授業計画を参照）   |
|    |    | 経営学                        | 于      | 企業経営活動の仕組み、企業の形態と株式上場、企業の経営戦略、経営の国際化などを学ぶことによって、現代社会の企業の経営活動に対する理解を深める。  |
|    |    | Intercultural Interactions | 未定     | テキストの内容に沿いながら、異文化コミュニケーションに関する基礎知識に関して学生に発表、ディスカッションをしてもらい、実際の様々なケースについても考えていく。  |
| 金  | 4  | 文化人類学 2                    | 未定     | 現代のグローバル化の波は、私たちの身近な地域コミュニティにも、民族、宗教、国籍、ジェンダー、価値観、ライフスタイルなどが異なる人びとがともに暮らす多文化・多民族化をもたらしている。私たちはこうした多様な文化的背景をもつ人びとをいかに理解し、彼らと共に生きるべきなのか。本講義では、異なる社会の文化や慣習の理解をつうじて、人間について理解することを目指す文化人類学の理論を学ぶ。同時に、こうした理論が、今の自分自身が生きる世界といかに関連しているのか、さまざまな民族誌的資料をとおして考える。  |
|    |    | マスコミ論                      | 河島     | 日常生活で接する様々なマスメディア（新聞、放送、出版、広告、映画など）について、その概要と産業としての特徴を学ぶ。記者クラブ制度、誤報と虚報、プライバシーの侵害などマスコミの倫理問題も扱う。  |
|    |    | ヨーロッパの文化と社会                | 小林(弘)  | 「ヨーロッパ」という言葉を耳にしたリロにすることは、よくあると思います。しかし、私達が「ヨーロッパ」と呼んでいるものは、実際、どのような姿をしているのでしょうか。この授業ではぼんやりとしたイメージしかないかもしれない「ヨーロッパ」の実態を、様々な面から掘り下げていきます。   |
|    |    | Speech Communication       | 小笠原    | We share and exchange our thoughts and information through the verbal and nonverbal linguistic symbols, and speech is the main mode of communication for humans. For a better communication in English, it is important for students to build their confidence in interpersonal communications. This course will help students to develop and improve their skills of pronunciation, group discussions, and public presentations by providing the fundamental concepts of phonetics and phonology and sufficient practices of English pronunciation. |
|    |    | グローバル社会論                   | 山岡     | この授業では、グローバル化した世界を理解するための理論的枠組みについて学ぶ。前半で主にナショナリズム論について学び、後半で公共性論について学んでいく。「われわれ」という政治的単位がいかにして作り出され、変容していくのか、という問いに迫っていく。   |

| 曜日 | 時限 | 授業科目名          | 担当    | 授 業 概 要  |
|----|----|----------------|-------|--|
| 金  | 5  | 世界の宗教          | 片倉    | 世界の宗教のうち、世界総人口に占める信徒の割合を現在の4分の1から、2050年には3分の1まで増やすであろうともいわれているイスラーム教について学びます。その信仰内容、歴史、現在の状況など、さまざまなテーマから講義の各回1つずつを取り上げ、ごく基本的な知識から解説します。さまざまな宗教をまんべんなく学ぶことを目的とした授業ではありませんので、履修の際には注意してください。  |
|    |    | 芸術をめぐる         | 未定    | この授業では、20世紀以降の（主に欧米の）芸術、いわゆる「現代アート」の歴史を学びます。一見すると「わかりにくい」と思われがちな現代アートを理解するために重要なのは、作品がどのような問題意識の中で生まれ、また何を成し遂げているのかを説明する言葉（理論や批評）を知ること、そしてその作品がどのような歴史的・社会的状況に基づいているのかを押さえることです。この授業はそうした観点から現代アートを解きほぐすことで、より深い理解、よりよい鑑賞の一助となることを目指します。         |
|    |    | データベース・プログラミング | 中村（賢） | 現在はデジタル技術がなくてはならない世界になり、国際社会を生きる学生にとってデジタル技術は必須です。しかしながら、日本社会はデジタル技術に後れを取っていることも事実です。古い技術の非効率さがどこにあるのかを考えるためにも、本授業ではインターネット上で用いられる新しいプログラミングの基礎とセキュリティ概念について学びます。2022年に政府・自治体は、行政データのクラウド化を進めており、クラウドベースの学習をします。実際に課題を行いながら、Google Site構築を目指します。 |
|    |    | ヨーロッパの国際関係     | 小林（弘） | 現在EUとして地域統合を進めているヨーロッパも、数々の戦争や危機を経験してきた。この授業では数々の困難を乗り越え現在まで辿り着いたヨーロッパの国際関係を、歴史的に見ていく。特に欧州統合の流れに注目する。  |

※授業の詳細は、本学HP（<https://www.gpwu.ac.jp/>）で令和7年度版シラバスを参照いただくか、個別にお問い合わせください。  
なお、内容については変更になる場合があります。

# 令和8年度 群馬県立女子大学 高大連携による公開講座一覧及び授業概要【後期】

| 曜日 | 時間 | 授業科目名                          | 担当教員   | 授 業 概 要  |
|----|----|--------------------------------|--------|--|
| 月  | 4  | 歴史文化論                          | 鈴木(親)  | この講義では日本の歴史資料、特に中世から近世の美術作品に登場する男女の描き分けについて文化的・美術史的な観点から整理する。男女の描き分けから読み取れる社会的状況や、男女の描き分けが曖昧なことによって起きた議論などを追っていく。こうした資料に登場する描き分けは、必ずしも今日のジェンダーを巡る諸問題に直結するものではない。しかし、歴史的にどのように性差・性別が描かれてきたのかを学ぶことで、各時代の文化的枠組みを理解することにつながる。  |
|    |    | Language Variation and Society | 荒野     | 社会における言語のヴァリエーション(変種)を学ぶことで、社会における多様性と社会そのものの多層性について学ぶ。  |
|    | 5  | メディアと文化2                       | 木村(智哉) | 日本におけるアニメーションの歴史を産業的観点から論じることで、それを取り巻く諸メディア産業の歴史と構造を実証的に把握する。  |
| 火  | 4  | グローバル・シチズンシップ～大使リレー講座～         | 鈴木(悠)  | (前期と同様)  |
|    |    | プロジェクト・プランニング                  | 兼本     | 商品開発プロジェクトの模擬体験を通して、商品開発の考え方を学ぶ。   |
| 水  | 4  | 地球社会と共生                        | 未定     | わたしたちは「地球に生きるための持続可能な人類社会のあり方」とはどのようなものか、互いにそのビジョンを共有し、いまの社会のあり方、わたしたち自身の行動を修整しながら生きていかなければならない。「これまで通り」の延長であったり、継続であったりであることは、地球社会が直面する問題解決につながらない。この授業では、ビジョンを共有し、そして問題解決のためにできることを考えることを、アクティビティ、社会調査、協働学習のプロジェクトの実施によって行っていく。  |
|    |    | 中東・アフリカの国際関係                   | 荒井     | 中東・アフリカの国際関係の特徴について、歴史的経緯を踏まえながら、アイデンティティの問題、資源と経済の影響、内戦といったテーマを扱う。  |
| 木  | 4  | 量的調査方法論                        | 鳶島     | この授業では、社会調査の目的、仮説の構築、調査方法とサンプリング、調査票の作成、実査の方法や段取りに加え、調査データを分析可能な形にするための整理の仕方について学ぶ。また、基礎的な統計分析の方法についても学習する。  |
|    |    | 社会の中の日本語                       | 富岡     | 我々は、様々な「社会」の中で、多くの人と関わりながら、「社会生活」を送っています。この講義では、様々な「社会」や「社会生活」の中で使用される様々な日本語を観察したり考えたりしていくことで、日本語へのより幅広い関心を喚起するとともに、間接的に、我々がことばの中で生きていくということを考える時間になります。   |
|    | 4  | Topics in Communication        | 梅田     | This course explores various topics related to interpersonal and group communication. It introduces students to the fundamental concepts of human communication while emphasizing their practical application in real-life situations.   |
|    |    | Contrastive Linguistics        | 吉村     | This course is an introduction to contrastive analysis of languages, comparing and contrasting two or more languages on their linguistic features (phonological, morphological, lexical, structural, and semantic features). While focusing on English and Japanese, the course additionally covers data from other languages to illustrate typological patterns as well as crosslinguistic diversity. |
|    |    | 実験行動経済学                        | 原谷     | 実験経済学および行動経済学の基本的な知識と、それを用いて経済行動を考える方法を学びます。   |
|    | 5  | 日本美術に親しむ2                      | 浦木     | 日本美術について、「モチーフ」「テキスト」「マテリアル」などの視点で各授業ごとにテーマを設け、分野横断的に学ぶ。日本美術の造形的な魅力、基本的な知識、社会背景に関する知見などを身につけ、専門的に学ぶことの足がかりとする。   |
|    |    | 世界の英語                          | 深谷     | 世界の様々な地域で使用されている英語について、社会的背景や音声・文法・語彙の特徴等について学ぶ。   |
| 金  | 4  | 哲学A                            | 細川     | これまでの標準的な哲学史を、「情報」の観点からとらえなおし、「情報論としての哲学史」として再解釈・再構成することを試みます。今年度も昨年度に続き、主にハイデガーの哲学思想を情報論的に再解釈し再構成することを試みる予定です。  |
|    |    | Cross-cultural Pragmatics      | 吉村     | This is a course on cross-cultural pragmatics. Pragmatics is the study of language use in context, where context includes linguistic and sociocultural surroundings. This course introduces central concepts in cross-cultural pragmatics (speech acts, politeness theory), and discusses how to compare and contrast certain language use in different languages and cultures.                        |
|    | 4  | 国際法(発展)                        | 鈴木(悠)  | この授業では、国境を越えるビジネス、結婚や離婚などの家族関係のように複数の国に関わる問題は、どの国・地域の法に従って、どのような手続で解決されるのか、ということを知ります。また、国際私法と密接な関係にある民法を中心に、日本の法令についての理解を深め、他国の法令や社会的状況も合わせて学びます。具体的な事例を参照しながら、法を通して、多様な価値観が存在する現代社会の諸問題について考えていきます。  |
|    |    | 人間行動と情報                        | 甲村     | 人や集団の行動や思考について、講義を中心に学際的に学びます。   |

※授業の詳細は、本学HP (<https://www.gpwu.ac.jp/>) で令和7年度版シラバスを参照いただくか、個別にお問い合わせください。  
なお、内容については変更になる場合があります。